

## 横浜国立大学 環境生態研究室

学部：理工学部 建築都市・環境系学科 地球生態 EP（教育プログラム）

大学院（修士・博士）：環境情報学府環境リスクマネジメント専攻

研究室 HP：<http://ecorisk.ynu.ac.jp/matsuda/>

大学 HP：<http://www.ynu.ac.jp/>

Mail：[matsuda-hiroyuki-vj@ynu.ac.jp](mailto:matsuda-hiroyuki-vj@ynu.ac.jp)（松田裕之）

環境生態研究室（松田研究室）では、鳥類を含む野生生物だけでなく、様々な環境リスクについて研究を行っています。リスク学とは、端的にいうと、人にとって望ましくない事象が生じる確率や、生じた際の深刻さを定量化する学問といえます。

近年、野生生物に関する数多くのリスクが知られています。絶滅の危機にある生物種が増加し、一方では野生生物の増加による農林業被害なども生じています。外来生物の増加による在来生物の減少や、産業活動の影響で個体が死亡、あるいは生息地が損なわれる例もあります。

鳥類について例を挙げると、多くの鳥類種で絶滅が危惧されています。他方、カワウはかつて個体数が減少しましたが、現在は増加したことにより水産業被害が生じています。温室効果ガスの削減のために再生エネルギーの利用が促進されていますが、風力発電の風車に鳥類が衝突することがあります。

当研究室では、こうした問題にリスク学の観点から取り組んでおり、具体的には個体群動態の定量化、生息適地の指標化、風車への衝突リスクや衝突個体数および個体群への影響の推定などを行っています。下の写真はこれまでに当研究室でテーマとなった鳥類です。



**カワウ(左)**：個体数が増加し、水産業に被害が生じている。**オジロワシ(中)**：風力発電の風車に衝突することがある。**ヒバリ(右)**：世界的に生息地が減少している。